

いとすぎの丘



日本赤十字豊田看護大学
Japanese Red Cross Toyota College of Nursing

Vol.4



平成18年4月13、14日実施 新入生合宿研修 愛知健康プラザにて（愛知県知多郡東浦町）

Topics

体育大会について
新入生合宿研修に参加して
第三回いとすぎ祭を終えて
学祭委員としてのいとすぎ祭を終えて
第三回いとすぎ祭を終えての感想

上坂 更紗
杉浦 友里
河合 諒子
佐藤 ゆかり
鈴木 康久

公開講座

子供の心の発達とコミュニケーション 専門基礎 教授 端谷 毅
地域で生活する障害児・者を支えるサービスの仕組み 小児看護学 助手 佐藤 真澄
あなたは大丈夫？転倒予防 地域看護学 助教授 田中 昭子

英国プリマス滞在記

鶴見 あずみ、中野 容子
山口 慶子、山田 恵理子

随想 博愛社（日本赤十字社）設立の周辺 学長 村地 俊二

Academic Library

図書館司書 中尾 明子

研究の窓、研究室紹介 地域看護学 前助教授 石井 英子

Information

■ 公開講座 オープンキャンパス報告 入試情報

赤十字史料室



日赤史料室は日赤文書を保存していますが、この日赤文書は博物館明治村が所蔵するもので、平成17年1月から本学が保管しています。

日赤文書は戦前の日赤の活動を記録した文書と写真および日赤が所蔵していた図書から成り立っています。文書は日赤の国内外の様々な活動を扱っていますが、特に日清・日露戦争などにおける戦時救護と濃尾地震や関東大震災などにおける災害救護の活動に関連した文書が充実しています。現在は文書の公開と保存のために、文書のマイクロフィルム化を進めています。



体育大会について

委員長 上坂 更紗

Q. 準備はいつから始めました？

「四月の自治会総会で就任してからです。」

Q. どのように取り組みました？

「種目、人数も、すべての進行を考えた。苦労したのは、人をどううまく動かすのかということ。ゼロの状態の中で、一ヶ月しかなかったので、全部自分ではやっていけなかった。そこで、いろいろな手段をしたが、全員の納得がいかないと進まない。動いてもらうために役割を分担し、信頼して任せた。無理はしたくなかったが、協力できて最終的にはうまく進んだ。準備は集中して行ったが、互いに手伝ってできたと思う。」

Q. 当日はどうでした？

「思ったより参加者が多かった。不十分なところもあったが、協力してできた。案外楽しかったと言われた。」

「今年は学年にこだわらず、縦割り制でチ



ームを組んだ(注)。うまくいかないという予想だったが、縦割りで行った方が交流になり、プラスになると思っていた。そして、ゲームでの交流が生まれ、楽しかった。何もしない時間も少なかった。」

「仲良く交流が続く、『おいでん』にも出るという。後に続く交流になったのではないかと思っている。」

Q. 終わっての一言

「委員長をして、人を動かすのは大変だと思ったが、頑張っていたら協力してもらえて、役割分担してくれた。交流を深めて、『いい大学になった』という感じがする。プラスになっていくと思う。」

注) 一チーム四〇名で一三名を三学年で構成

一チーム内をA Bにさらに一と二で構成して、学年を平等に分けた。午前午後でバレーボールと野外競技をおこない、得点制で競った。

新入生合宿研修に参加して

杉浦 友里

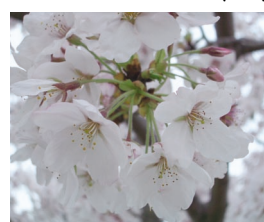
私たちは四月一三・一四日で、知多郡東浦町にある愛知健康プラザへ行ってきました。入学式を終えてまだ一週間後というところで、行く前は緊張と不安と楽しみという三拍子の気持ちでした。そして当日を迎え、最初にビックリしたのは健康プラザの広さです。とっても広く、いろんな建物や自然があつてすごくビックリしました。そしてなにより、空気の気持ちよさは、なんとも言えませんでした。

また、親交を深めるために行われた「クイズラリー」では、七人ずつのグループに分かれて、一五問ぐらいの問題を敷地内で歩き回って探して答えるゲームが行われました。たくさん歩き疲れましたが、とっても盛り上がり、グループ内ではいつの間にか協力して探したり考えたりする団結心が生まれていました。こういう気持ちは、これから私たちが目指している看護には必要不可欠な気持ちなので、ゲームをしている中にも学ぶことが含まれているなあと思いました。



そして学長の村地先生が、お忙しい中私たちのために健康プラザまで来てくださり、お話を一時間程度して頂きました。

先生のお話を聞いて、赤十字の歴史は長く、また本学について初めて知ったことがたくさんありました。改めて赤十字に対しての誇りを持ち、また赤十字の学生としての自覚と誇りを持たなければならぬとも感じました。他にもチューターとの交流会や、自分の運動能力測定やエアロビもありました。



このように、一泊二日という短い時間ではあったのですが、とても内容が充実していて充実した一泊二日になりました。そして、新しく出会った仲間との交流や、赤十字の学生としての自覚、またこれから看護を学ぶにあたり自分の健康状態を知ることが、学ぶ第一歩であるこの合宿で学びました。

第三回いとしぎ祭を終えて

いとしぎ祭実行委員長 河合 諒子

過日、五月二七日土曜日第三回いとしぎ祭は、天候にも恵まれ、二〇〇人以上の来客者をお迎えし、開催することができました。多くの方々のご協力、ご指導ご配慮、ご来場に心から感謝しております。ありがとうございます。

第一回いとしぎ祭は、短期大学の先輩たちにリードしていただきました。新しい施設での初めてのいとしぎ祭で、開催場所や方法などに悩みながらも、無事開

催することができました。第二回いとすぎ祭は、二学年での開催となりました。準備一つ一つをこなすのに精一杯でした。しかし開催後の達成感は一倍でした。

そして第三回いとすぎ祭。三年生の参加や友好関係を築く場にいよいよ機会ということ、春に開催されることになりました。三年間学祭委員をやってきた私の思いは、今までで最高のこととすぎ祭にしたという思いでいっぱいでした。頼もしい学祭委員や仲間たちに支えられて、みんなで盛り上がることができました。開催後はすがすがしい気持ちとみんなへの感謝の気持ちでいっぱいでした。今回のテーマである「calio☆日赤 がんばりすぎ祭」にあった、みんなの努力や笑顔がいっぱいあった、充実した最高のいとすぎ祭でした！

私は実行委員として学祭に参加すること、一つのものを作り上げていく大変さや充実感、みんなで協力して進めることの難しさや楽しさ、仲間の支えの力強さ、大切さ、「ありがたい」「ありがとう」「お疲れ様」の一言のあたたかさ、本当に多



くのことを得ることができました。苦勞し、悩んだこともたくさんありましたが、実行委員としていとすぎ祭に参加でき、本当によかったです。

今回のいとすぎ祭が、生徒や来場者の方々の思い出の一つになったならとても嬉しく思います。今後のいとすぎ祭がより充実したものとなるよう、みんなで協力して、盛り上げて欲しいと思います。後輩となる皆さん、頑張ってくださいね！

学祭委員としてのいとすぎ祭を終えて

佐藤ゆかり

入学してから二回目の学祭は、いとすぎ祭実行委員二年副委員長という形で迎えました。実行委員や副委員長になったきっかけは、くじ引きでした。きっかけはどうあれ、今は学祭委員になってよかったと思っています。

学祭委員として初めてやったことは、『いとすぎ祭に向けて』という掲示物の作成でした。やっと仕事ができうれしかった気がします。その後もいろいろな掲示物をつくりました。人前に出るのは苦



手なので、裏方として少しは先輩を助けることができたかなと思います。

学祭が終わってからも、全学年にアンケートを行い、集計をしました。『楽しかった・良かった』などの感想から要望など、しっかり回答があつて、今回の学祭は昨年よりも充実して参加できたのかなと感じました。もちろん様々な批判もありましたが、それは来年につなげていきたいと考えています。

今年の学祭は、準備などで大変な面もあり、当日は雨も心配されたけれど、無事晴れ、大きな問題も起こることなく開催できてよかったです。当日晴れたのは、みんなの準備の頑張りのおかげかなと思います。個人的にも充実して楽しい学祭を体験することができました。学祭委員になったことは、私にとってプラスになった気がします。

来年は引継ぎをし、自分たちが先頭に立って運営し、伝統を守りつつ、新たな企画を行えたらいいなと思います。

来年は引継ぎをし、自分たちが先頭に立って運営し、伝統を守りつつ、新たな企画を行えたらいいなと思います。



ます。

第三回いとすぎ祭を終えての感想

鈴木 康久

今年で三回目となる学祭は人数も規模も拡大し、模擬店数二六店舗、ステージも学外からの出演者を募り、年々盛り上がりを増しています。今回はステージの設備も去年より豪華になり、三学年が共同して作業を進めることで、本大学の学祭も軌道に乗り始めてきた印象を持ちました。

私は模擬店としてチャリティー、ジュースを販売し、多くの地域の方々と交流して、多くの達成感を得ることができました。また、ステージでのダンス、バンド、DJ発表など去年とは違った学祭を楽しむことができました。

私は学祭委員としては参加できなかったのですが、学祭委員の方の苦勞、学祭に対する熱い思いを肌で感じました。やはり縁の下の方の力持ちである学祭委員の方々の努力なしには、学祭の成功はなかったのではないかと考えています。本当にご苦勞様です。

来年は私たち二年生が中心となつて、学祭を作り上げていかなくてはいいけません。今年の学祭の良い点、また新しい企画を取り入れ、いとすぎ祭の良い伝統を作り上げていきたいと思っています。

公開講座 子供の心の発達と コミュニケーション

専門基礎 教授 端谷 毅



心の病気には一・統合失調症、二・うつ病などの気分障害、三・認知症、四・広汎性発達障害、五・人格障害（パーソナリティ障害）などがあります。広汎性発達障害の典型的な自閉症では、①言葉の遅れ、②コミュニケーション障害、③ある種のこだわりの強さが診断基準です。広汎性発達障害やアスペルガーなどもコミュニケーションの障害については同様です。そのコミュニケーション能力も徐々に発達する能力です。場を読む能力（デブなおばさんやハゲのおじさんとは本人の目の前で言わない）や、代名詞の使い方も発達する能力です。さらに発達障害も様々な程度があり、ここからがはっきり発達障害だとは言いつけない部分があります。

性格でもプライドが高い人、しつこい性格の人など様々な性格の人がいます。

それがあまりに強くなりすぎると問題になります。必要以上に見栄を張り、サラ金からお金を借りてまでいい服を買ったりしてしま

人も出てきます。しつこすぎると、毎日音楽を鳴らしながら布団たたきをして警察に捕まる人になってしまいます。そしてそういう人はパーソナリティ障害という病名が付きます。

心に関する病名にはそんなあいまいさのからくりがあります。赤ちゃんは大人の基準からすれば、全知的障害者であり身体障害者として生まれてきます。そして徐々に発達していつて大人になります。発達障害は少し発達が遅れている人であって、発達しない人ではありません。そして、周りから見れば独特の考え方や行動を取ることがあります。誰にでも得手・不得手があります。そして、多くの大人は不得意な部分を使わずに生活しています。どうして、子供だけがすべてを上手にこなさなければいけないのでしょうか？苦手な部分を周りが理解してあげなければいけないのではないのでしょうか？ひょっとして、僕たちは耳が聞こえない人が横断歩道を渡っているのに、遅いといつてクラクションを鳴らしているようなことをしているのではないのでしょうか？

公開講座 地域で生活する障害児・者を支えるサービスの仕組み

小児看護学 助手 佐藤 真澄

昨今の保健・福祉を取り巻く制度環境の変化はめまぐるしいものがあります。今回の公開講座は、「地域」を重視した新たな福祉の潮流に着目し、制度の仕組み



と、地域で芽生えようとしているサービスについて考える機会にしたいという趣旨で開催しました。

当日は、看護職・福祉職の方に加えて、学生や地域住民の方と、幅広い層のご参加を頂くことができました。

本稿では、講座のメインテーマである「改正介護保険法」と「障害者自立支援法」の内容に若干触れながら、講座の流れをご紹介します。

この二つの制度改革は、ともに、市町村が主体となって、介護が必要な状況に



なくても、「施設」という特別な場所ではなく、身近な地域社会で支えていくことを目指すものであることが共通の理念となっています。そのため、介護保険法では「地域密着型サービス」が、障害者自立支援法では「地域生活支援事業」という新たなサービス類型が創設されました。

一方で、地域社会のなかでは、様々な自発的な実践が生まれようとしています。

講座では代表例として、二つの先駆的な実践を紹介しました。一つは障害が特に重度な人たちの日中活動を支える「重症心身障害児（者）通園事業」、もう一つは高齢・障害・子どもといった制度枠を取り除き、ともに集うことを目指す「共生ケア」です。

こうした新たな実践と制度が融合された地域づくりを、豊田市においても取り組まれていくことを、応援していきたいと考えています。

公開講座 あなたは大丈夫？ 転倒予防

地域看護学 助教授 田中 昭子

去る七月一五国土曜日、地域看護学領域担当による公開講座「あなたは大丈夫？転倒予防」を開催しました。猛暑にもかかわらず四九名の参加があり、広報・公開講座委員会および企画課のサポートによって、盛況のうちに実施することができました。参加者は、男性七名、女性四二名、平均年齢七三・〇歳でした。講座の内容は、血圧測定、握力測定、骨

密度測定、転倒予防チェックシートによる転倒リスクのチェックと転倒予防についての講義、足指体操、足指ジャンケンを実施しました。

この転倒予防チェックシートは、筆者が広島大学大学院保健学研究科博士課程後期に在学中に作成し、介入研究により効果が認められた博士論文の一部です。

転倒予防チェックシートを記入することによって、自分の転倒リスクに気づき、転倒リスクに応じた予防行動がとれるようになることを目的にしています。大学院での介入調査時に多かった転倒リスクは、内服薬七四・七％、疾患五五・八％、不眠五四・六％、頻尿・尿失禁五〇・六％、足の問題四三・八％、バランス能力の低下四二・六％でした。そこで、今回の公開講座でも主にそれらの転倒リスクについて自分でできる予防方法を紹介しました。特に、足の問題やバランス能力の低



下を予防するため
の方法として、新聞紙をたぐり寄せる足指体操と足指ジャンケンを実施しました。



足の土踏まずにくぼみがあり、横から見るとアーチ状になっていて、足指でしっかりと地面が蹴れることが、転倒予防には必要といわれています。しかし、足指の動きをふだん意識している人は少ないと思います。参加者の皆さんも、最初思いうように足指が動かず悪戦苦闘されていました。徐々に動きがよくなり、日頃足指を動かしていなかったことを実感されていきました。時には笑顔もこぼれ、楽しく転倒予防について学んでいただけたのではないかと思います。

今後も大学での研究成果を地域の住民の方々に還元できるような活動を行っていききたいと思います。

インタビュー 英国プリマス滞在記 (二月五日～三月九日) 鶴見あずみ、中野容子、 山口慶子、山田恵理子

Q. 海外旅行の不安はありましたか？
「みんなで行く安心感があって、楽しかった。」

た。「治安はよかったので、安心して夜間も歩くことができました。」

Q. 主にどのように過ごしていましたか。
「九時半から一二時半まで英語クラスで、金曜日にテストがあった。ルーマニアやカザフスタンなど、他の国の人との交流も楽しく、英語を使う機会になった。」

「午後は、施設見学や自由に生活をしていた。」

Q. 実際の生活の中で驚いたことなど、エピソードを教えてください。

「食器用洗剤で洗って、濯がずに、皿を立てかけておくだけだった。水をあまり使わず、シャワーの水使用も注文された。」
「スーパーの閉店時間が一八時頃だった。」
「食事マナーに厳しく、人の前を横切つて物をとったりすると家族が指摘されていた(ホストファミリーによって違う)。」

「プリマスには中国人が多いので、間違えられた。」

Q. 施設見学をして、どう感じましたか。

「マウント・クラウンヒル病院はリハビリテーション機能をもつ病院で、高台にある眺めがよかった。病室は広く、お茶を飲むスペースと机があった。病棟に三つのバスルームがあり、トレーニング用のキッチンもあった。」
「セントルーク・ホスピスはアニマルセラピーもおこなわれ、入浴はいつでも好きにできた。チャペルもあり、家族らと最後のお別れをする部屋もあった。」
「カンハウスは山中にあるお屋敷を老人ホーム(ナースィングホーム)として使用していた。慢性疾患がある人が多く、リハビリをおこない、ゆつたり生活している感じだった。」

の施設もゆつたりとして、スタッフも仕事に追われていなかった。」

Q. 訪問後何か変わったことありますか。
「自分を積極的にさせてくれた。」帰ってから英語の勉強は続けている。

Q. 今後海外にホームステイなど行く人への助言があれば。

「英語はもちろん必要。今回は決定がぎりぎりだったので、あまり準備できなかったが事前に医療や看護の制度、見学施設について勉強しておけばよかった。」

皆さん、プリマスでは暖かく歓迎され、地元新聞にも掲載されたとのこと。今回の滞在に協力された方々に対し感謝しつつ頑張る皆さんの活躍を期待します。



博愛社（日本赤十字社）

設立の周辺

学長 村地 俊二

一・西南戦争と博愛社

西南戦争とは、一八七七年二月一日に勃発した前参議陸軍大将西郷隆盛を総帥とする鹿児島族薩摩軍と政府軍との日本最後の内戦であり、西郷隆盛の敗戦自決に終わった戦いをいう。

明治一〇年二月一七日、鹿児島から進発した薩摩軍は、政府軍の死守する熊本城の攻防戦を開始し、その最大の激戦地であった田原坂では三月四日から壮絶な激闘が繰り返された。

官軍将校、川上定武の「従征日記」には、「賊抜刀して呐喊（とっかん）す。瓢忽（ひょうくつ）ようこう風雨の如し。我が兵銃に剣してこれを防ぐも支ふる能はず。常にその兇鋒（きようほう）の被るところとなる。我が兵また進みて兵撃猛烈をきわめ、再びその壘を略せば、賊また抜刀突入し、又これを奪はる。」と描記している。

この田原坂の傷屍累々の惨状は、その昔一八五九年、北伊ソルフェリーノの激戦におけるアンリ・デュナン Henry Dunant の経験した壮烈な戦場の姿と全く同景であった。

西南戦争の夥しい死傷者の悲報に接した元老院議員の大給恒（おおぎつうゆずる）や佐野常民（さのつねたみ）は、同様（よう）に心痛の天皇・皇后はじめ皇族、華族、その他上流階級諸団体の人々と共に、西欧に倣（なら）って救護団体（国際赤十字社など）の設立運動を始めた。

元老院議員佐野常民や右大臣岩倉具視は、すでに明治六（一八七三）年に欧州に出張し、その際それぞれが前記アンリ・デュナンの提唱により一八六四年に創設された国際組織赤十字社のヨーロッパにおける活発な社会活動を視察し、帰国後わが国にも同種の組織の設立を企画・準備していた。大給恒と佐野常民は設置に関わる幾多の難関を越えて明治一〇年五月三日、遂に設立願書と社則の裁可の成功に漕ぎつけ、博愛社設置が実現した。その時の博愛社社則五条とは以下の如くであった。

博愛社 社則五条

- 第1条 本社ノ目的ハ戦場ノ創者ヲ救フニ在リ。一切ノ戦事ハ曾テ之ニ関セス
- 第2条 本社ノ社員ノ出金ト有志者ノ寄付金トヨリ成ル
- 第3条 本社使用スル所ノ医員看病人等ハ衣上ニ特別ノ標章を著シ、以テ遠方ヨリ識別スルニ便ス
- 第4条 敵人、傷者ト雖モ救ヒ得ヘキ者ハ之ヲ収ムヘシ
- 第5条 官府ノ法則ニ謹遵（きんじゆん）スルハ勿論、進退共ニ陸海軍医長官ノ指揮ヲ奉スヘシ

博愛社設立について東京日日新聞は明治一〇年五月七日付で報道し、いよいよ戦傷者に対する救護活動は開始され、医師は小川良益をはじめ津田一蔵、深町亨、藤田圭甫、高塚友義、原田隆造などの氏名が見られる。西南戦争全体で実動救護

員は一二六名、うち医師二二名、看護人一〇四名であったと記されている。

二・博愛社第一号寄付「白胡麻一樽」

明治一〇（一八七七）年六月二二日付の「朝野新聞第一一四三号」は、博愛社の設立を大々的に報じ、その設立協賛の規則書、願書等についても掲載したところ朝野に予想外の大きい反響が起った。例えば下記のごとき書面があった。

今回、征討総督官、允許ヲ得、一社ヲ設ク、博愛社ト号シ、西南戦争ニ疵傷スル者、官ト賊トノ別ナク療護セラルル由、開明ノ義拳、博愛ノ情、感嘆ニ堪ヘザルナリ。因テ微些ト雖モ金拾五圓ヲ贈呈シ寸志ヲ表ス。採納アラントヲ希望ス
明治十年七月二日
水野忠順 印 大給 恒 殿
佐野常民 殿

こうした寄付全員申込書を付して博愛社入社願書を送って来た以下の有名、無名の人々が見られた。

桜井忠興、妻錦子、大給恒、大給近通、山岡鉄太郎、多久正典、榎木武揚、柳沢光邦、笠原光雄（愛知県）、古田とく（美濃国安八郡大藪）、岩村通俊、その他愛知県西尾町、岩手県、秋田県、山形県、新潟県、嶋根県、日本国在外公使館員など全国都道府県の住民からであった。

その中に六月二二日付の朝野新聞掲載の「博愛社設置」の記事を読んだ東京第一一大区二小区（現在の江東区）八右衛新内六番地在住の「笠原はん」という老女がその感激の思いを込めて博愛社あて一通の手紙を送った。それは、「博愛社入社の願書と寄付規則に従って、手製の太

白胡麻一樽を寄贈致したいが、それを府内の手船にて即日お送りしてよいものか、その代金をお送りした方がよいものか、至急返事いただきたい」という主旨であった。

明治一〇年六月二四日午前六時投函というその手紙を受けた博愛社事務所は、「ご寄付のご芳志は誠に感佩ただならず有難い次第であるが、只今戦地救護所において直ちに入用の品については全く不明の状態にあるため代価にて頂いた方が便宜と考えられるものの、あえて指図はできないので、もし納品をご希望ならば、東京麹町区富士見町四丁目の桜井忠興邸の博愛社仮事務所に送って頂きたい。またご寄付品への支払については、後日明細計算書を博愛社へ報告の必要があることをご了承頂きたい」旨、六月二五日付の返書を送っている。

之に対して笠原はん女は、胡麻壹樽分代金は金拾貳圓であり、この一二円を寄付金として提出し、後日博愛社員が九州へ持参の上、彼女の意志を尊重して胡麻を購入して負傷者に配付することとなった。笠原はん女の「太白胡麻代金寄付」は、博愛社事務所開設直後の最初の民間寄付金として「博愛社第一報告」に記録されている。

文献

- 一・日本赤十字創立125周年記念展 一八七七（二〇〇二）、日本赤十字社、二〇〇三
- 二・日本の一〇〇人 No.101 西郷隆盛、デアゴステイゴ・ジャパン、二〇〇六
- 三・吉川龍子…日赤の創始者 佐野常民、吉川弘文館、二〇〇一



医師鎌田實氏は乳癌再発患者と往復書簡を雑誌に掲載を始める。乳房温存手術を受け二年後に鎖骨リンパ節への転移が見つかり、主治医に「治療しても効果は期待できない」と告げられ再発癌を生きぬく決意をした患者である。いわゆる「がん難民」。悲しい言葉である。

往復書簡は「がんばらない」そんなことができるのでしょいか」で始まる。「がんばらない」は鎌田氏の著書のタイトルであり、患者への温かで緩やかな応援の言葉でもある。

再発癌を生きぬく覚悟を決めても、やがて、転移した皮膚から血性を伴った浸出液が漏れ出す。心は不安に揺れ、死に怯える自分に驚く。そして「医療は患者を支える心が大切なのだ」という鎌田氏になお、あえてこう綴る。

「がんという病とのつきあい何で医療者に望むかと問われれば技術と答えるでしょう。(略)患者の心と向き合うことも、医療者の技術としてとらえたならば、今の医療の現場では患者の心も、患者の家族の心もケアされる場所も技術もありません。(略)医療者には、ただ単純に話を聞く姿勢を持つてほしいのです。患者はいつも不安を抱えています。医療者がらすれば見当違いの不安であっても患者



の心の奥には必ず切実で、現実的な不安があるはずだ。患者医療者に訴える言葉にできず、思いの半分も語れません。話を聞いてもらうことで、患者自身が心を解きほぐせるのです。心がほぐれたら、自分自身の不安を医療者に、わかりやすい言葉で表現できるようにするでしょう。(略)がん向き合っている間に、私の血管は使いにくくなったようです。以前はそんなことはありませんでしたが、ここ二、三年採血をしてくれる検査技師の方や、点滴をしてくれる看護師の方にそういわれます。点滴のための注射針の工夫、医療者の点滴の技術でなんとかならないものかと切実に思います。これも技術の一つでしょう。」と。

重い。しかし生きる意味が見えてくる本である。



日本赤十字豊田看護大学に赴任して二年目になります。地域看護学領域に所属し、学部長はじめ助教教授三人、講師一人、助手四人の構成員です。地域看護学領域の研究テーマは、地域社会との協調と連携を図る実践に基づいたものを大切にしていきます。

私が常に思っている

ことは、「ポジティブでもネガティブでも結果をきちんと解析して次につながる何かをつかむこと」です。これらの過程を「やりきる」ことによって、私たちの前にはかならず新しい道が開けてきます。日々の生活の中からの一端を紹介したいと思います。赤十字と糸杉との関係を考えてみたいと思います。糸杉は、赤十字の父、アンリ・デュナンと深い関係があることを日本赤十字豊田看護大学に赴任してわかったことです。これまで、糸杉といえば、ゴッホの糸杉と星の見える道は有名です。この春にスペインを旅した時のことです。グラナダのアルハンブラ宮殿の庭園はピロッドのような垣根が見事でした。パルセロナのモンジュイックの丘の裏手にはまるで絵のような建物の山の景色が広がり、よく見るとお墓のようでした。なぜ、お墓に糸杉が植えられているか現地の人に聞いてみたところ、糸杉は、根っこが真っ直ぐ伸び、また幹そのものも真っ直



アルハンブラ宮殿の糸杉の垣根

ぐ空に向かつて伸びるから天国にいくという連想があるといわれ、スペインの宗教観と死生観を垣間見たような気がしました。神話では、アポロンがクパリスという名前前の若いギリシャ人をサイプレス(和名「糸杉」)の木に変え、サイプレスは、学術名を Cypressus sempervirens といひ、Sempervirensとは「永久に生きる」意味である由。サイプレスの香りは、一言でいうとまさしく「森林浴」。この香りを嗅ぐだけで森の中に入り込んだような清しさを感ずき、精神を浄化させてくれると記してあります。アンリ・デュナンと糸杉の丘の関連ではイタリア統一戦争の幕を切つておろされた一八五九年六月頃「敵味方の差別なく救護する」「あくまで中立の立場で」「国際的な民間団体をつくつて普段から準備しておくべきだ」と訴え、のちの赤十字の創設につながっています。赤十字の糸杉のシンボルは、青少年赤十字をはじめとして赤十字関係で使用されており、シンボルの代表格は日本赤十字豊田看護大学の校章です。ソリフェリーの丘からの糸杉は、「Tutti fratelli」(「われらはみな兄弟」)と叫んだデュナンの活動と糸杉の丘を、豊田看護大学の歴史と理念に息づかせる新たな伝統に寄与したいと思う日々です。

Information

公開講座1

「パワーアップからだもここも生き生き健康」をメインテーマとして、一般の方を対象に下記の通り開催します。お気軽にご参加ください。

講座名・担当	日時・場所	内 容	人数
高血圧の健康管理 担当：成人看護学	3月3日(土) 9:30-11:30 ヘルスプロモーションセンター	・血圧測定法、運動量・強さによる血圧変動、呼吸法、食事と血圧、ストレス体操による緩和法などさまざまな血圧について探る。	40名

公開講座2

「看護研究・業務に生かす情報検索・統計処理」をメインテーマとして、保健・医療・福祉専門職の方を対象に下記の通り開催します。

講座名・担当	日時・場所	内 容	人数
看護研究入門 担当：本学教授 他	9月30日(土) 9:30-11:30 本学情報処理室	「看護研究入門」	40名
看護研究に活かす情報検索 担当：本学教授 他	10月14日(土) 9:30-11:30 本学情報処理室	「医学中央雑誌での情報検索(講義・演習)」	40名
看護研究に活かすプレゼンテーション 担当：本学教授 他	11月25日(土) 9:30-11:30 本学情報処理室	「パワーポイント講演会(初級)講義・演習」	40名
看護の高等教育化 担当：本学教授 他	12月16日(土) 9:30-11:30 本学セミナールーム	・高等教育化の動向、現状、課題を概説し、学生実習や新人教育につなげる。	40名程度

ホームページ <http://www.rctoyota.ac.jp> の申込フォームからお申し込みいただくか、氏名・住所・連絡先・参加希望講座を明記の上日本赤十字豊田看護大学企画課までハガキ・FAXでお申し込みください。

オープンキャンパス報告

本学平成18年度オープンキャンパスについて、1回目(7月22日)、2回目(8月26日)両日とも土曜日に開催されました。あわせて約400名の学生と保護者が参加され好評のうちに終了しました。



平成19年(2007年)度 入学試験日程等

試験の種別	募集人員	試 験 日
一般入試	55名	平成19年(2007年)2月3日(土)
高等学校長推薦入試	30名	平成18年(2006年)12月2日(土)
社会人特別選抜入試	5名	
日本赤十字社中部各県支部長推薦入試	30名	平成18年(2006年)11月18日(土)

入学試験にかかる詳細については、本学企画課(0565-36-5228)までお問い合わせ下さい。

いどすぎの丘 Vol.4

発行日/2006年9月1日

編集・発行/日本赤十字豊田看護大学

広報・公開講座委員会、企画課

〒471-8565 豊田市白山町七曲12-33

TEL 0565-36-5228 FAX 0565-37-8558

E-Mail info@rctoyota.ac.jp

H P <http://www.rctoyota.ac.jp>